

本時のねらい ▶ 地域や時期による気候や降水量の違いに着目し、国土の気候の特色を捉える。

● 本時の指導案

主な学習活動／引き出したい子どもの反応・発言

- ① 東京都と白川郷の2月の写真、雨温図を比べて、気づいたことを発表する。

T 前の時間に様々な地形と気候との関係を調べました。

雨や雪の降る量には、何の関係しているのだろう。

- C 雪は北のほうで降るから、南北の違いが関係しているかな。
C 標高が高いと寒くなるから、土地の高低も関係している。
T では、この写真を見てください。2月の東京と白川郷です。
C 白川郷は、たくさん雪が積もっています。
T 地図で南北の位置を見てみましょう。
C 南北はあまり変わらないです。雪の降る量は緯度だけでは決まらなくて、地形が関係していると思います。
② 日本各地の雨温図、同じ地域の四季の写真から、地域や季節による気候の違いを読み取る。

T では次に、日本各地の気温と降水量のグラフを見てみましょう。気温は折れ線グラフで「℃」の目盛りを読みます。

- C 白川村は冬でも降水量が多いです。
C 奄美市は降水量も多いけれど、気温も高いです。
T どこか二つを比べて気づいたことをノートに書きましょう。
C 高松市は奄美市と比べて降水量がかなり少ないです。
C 白川村と松本市では、気温はあまり変わらないけれど、降水量がずいぶん違います。
T では白川郷の2、5、8、11月の違いも見てください。
C 日本には四季があって、季節により気温などが違います。

- ③ 関連資料から梅雨や台風、季節風が気候に与える影響について読み取る。

T 6月から7月にかけて、北海道以外の地域では梅雨があります。夏から秋にかけては台風も多く来ます。また、季節によって吹く風の向きが変わります。これを季節風といいます。

- C 6月頃に降水量が多くなっているのは、梅雨の影響ですね。
C 秋に降水量が多いのは、台風の影響だと思います。
C 白川郷で冬に降水量が多いのは、季節風の影響ですね。

- ④ 前時で学んだ地形の特色と季節風の関係を考え、話し合う。

T ㉔・㉕の図とp.22～23の地図を見て、地形の特色と季節風の関係について説明してみましょう。

- C 日本の真ん中にある山地や山脈に風がぶつかり、その手前で雨や雪が多く降る。季節風は夏と冬で向きが変わる。
C だから、夏は太平洋側、冬は日本海側で降水量が多い。
T 雨や雪の降る量には、何の関係していましたか。
C 梅雨や台風、季節風が関係していました。
C 山地に季節風が当たって雪が降るので地形にも関係あります。
T 各地の気温と降水量の特色を表にまとめましょう。

使う教材・資料

- 写真㉔、㉕
- 日本地図の掛図
- 地図帳

- グラフ㉒、㉓
- ※2月の部分に着目させる
- 学びのてびき「気温と降水量のグラフを読み取る」
- グラフ㉒～㉔（各地の雨温図）
- 写真㉑、㉒、㉓、㉔
- 学びのてびき「気温と降水量のグラフを読み取る」

- 図㉓
- 梅雨や台風に関する新聞記事など

- 図㉔、㉕
- 教科書p.22～23の日本地図

デジタル教科書（教材）の活用する機能の例

- 拡大
- ペン
- 思考ツール

● 指導のポイント

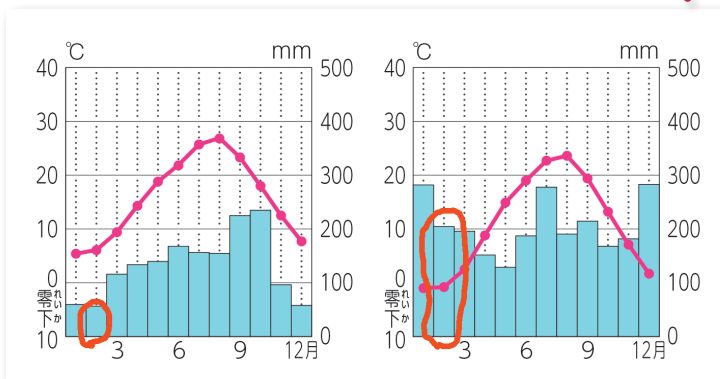
ある地点の気温と降水量を表す「雨温図」は、今後の学習にも出てくる資料なので、「学びのてびき」を活用して、読み取り方を丁寧に指導したい。

季節風の影響についても、丁寧に学習を進めたい。資料㉔と㉕で、季節風の向きが夏と冬で変わることを、中央の山地にぶつかり雨や雪を降らせることを視覚的に捉えたうえで、東京（太平洋側）と白川郷（日本海側）の違いと関連づけて理解させたい。



←二つの写真資料を並べて拡大するデジタル教科書の機能を活用して「2月の東京と白川郷」を提示し、両者を比較して読み取らせる。

↓雨温図を並べて拡大するデジタル教科書の機能を活用して「東京都千代田区」と「白川郷」を提示し、両者を比較して読み取らせる。その際に、ペン機能を使ってグラフを囲み、2月の降水量の違いに着目させる。次に、各地の雨温図を並べて表示し、比較しながら読み取らせる。



←図中の「かわいた風」「海からのしめった風」の文字を、デジタル教科書では消して提示することができる。最初は文字を消して提示し、矢印で示された風がどのような状態であるのかを考えさせたい。

←デジタル教科書には、わかったことや考えたことを整理して表す「思考ツール」の機能がある。学習内容に応じて、どの枠組みを用いて整理するとよいかを考えることを促したい。

【気温と降水量の特色】		
地域	気温	降水量
千代田区		
白川村		
奄美市		
高松市		
松本市		
稚内市		

学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

本時のねらい ▶ 二つの想像図の読み取りからわかったことや疑問点に着目し、
大昔の人々の暮らしの変化について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。

● 本時の指導案

主な学習活動／引き出したい子どもの反応・発言

- ① 二つの想像図の読み取りからわかったことや考えたこと、知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。

T 二つの想像図を比べて、考えたことや疑問に思ったことを話し合しましょう。

C 竪穴住居は変わっていないけれど、米づくりが始まった後は大きな建物が増えたみたいだ。

C むらに住む人が増えて、むらの規模も大きくなったと思う。この変化には米づくりが関係しているのではないかな。

C 縄文時代は狩りや漁をして食料を得ていたけれど、米づくりが行われるようになって生活が安定したのではないかな。

C 米づくりが行われるようになって、いろいろな道具がつくられるようになった。何に使う道具かわからないものもあったよ。

学習問題：大昔の人々の暮らしは、どのように変わっていったのだろう。

- ② 学習問題に対する予想を出し合う。

T 大昔の人々の暮らしは、どのように変わったのでしょうか。予想をしてみましょう。

C 狩りや漁に比べると、米をつくることで確実に食べ物が手に入るようになったのではないかな。

C 食料が多く手に入るようになったので、人口が増えたと思う。

C 米づくりのために仕事の仕方が変わったと思う。いろいろな作業を協力して行うようになったのではないかな。

C 武器のようなものをつくっているから、争いが起こったのかも。人々の関係も変わったのかな。

T みなさんが予想したことを表にまとめてみましょう。

- ③ 予想をもとに、学習問題を解決していくための方法（調べること、調べ方）について見通しをもつ。

T 学習問題を解決するために、どのようなことを調べていけばよいでしょうか。

C 米づくりが始まると、人々の食事はどのように変わったのか、それによって暮らしが変わったのかを知りたい。

C 米づくりの作業はどのようにして行われたのかを知りたい。

C 人々の関係がどのように変わったのか、争いは起こったのか調べていきたい。

T 大昔のことを調べるにはどうしたらよいでしょうか。

C 教科書や学校図書館の本などで調べられると思う。

C 博物館や資料館を見学すると、実物を見たり学芸員のお話を聴いたりできるのではないかな。

C インターネットで調べたら、情報が見つかるかもしれない。

使う教材・資料

- ・ p.79「狩りや漁をしていたころの様子（想像図）」
- ・ p.78写真ア～エ
- ・ p.78図
- ・ p.80～81「米づくりが広まったころの様子（想像図）」

- ・ 学びのてびき「資料から学習問題をつくる」

- ・ p.82キャラクターのふきだし

デジタル教科書（教材）の活用する機能の例

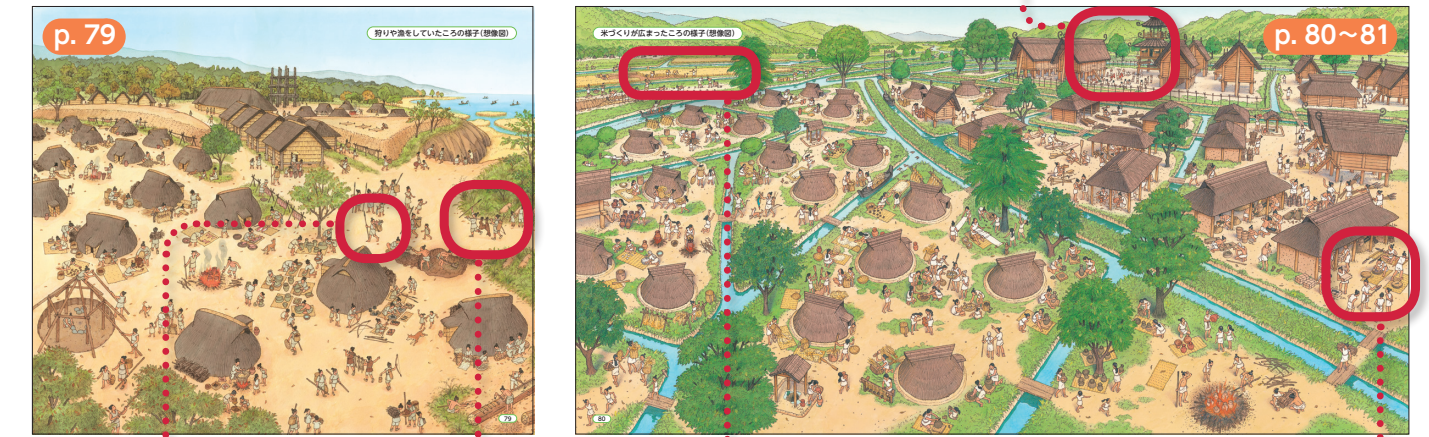
- 拡大
- めくり
- 思考ツール

● 指導のポイント

想像図の比較を通して児童たちに考えさせる際には、違いだけでなく、違いがある理由を意識させたい。気づいたことを発表させる際には、「どこが違うのか」、「その理由は何か」を発言するように助言する。そして、二つの時代の違いへの気づきをもとに、学習問題づくりにつなげていく。



↓二つの想像図を比べて、各自が気づいた「変わったところ」「違うところ」について、デジタル教科書の機能を使い、該当部分を拡大表示して発表し合う。その発表をもとにして学習問題をつくる。



↓児童による予想をデジタル教科書の「思考ツール」の機能を使って整理しながら「調べること」を明らかにし、追究の見通しを立てていく。



【縄文時代と弥生時代の暮らし】		
	縄文時代	弥生時代
食べ物		
建物・道具		
作業の様子		

↑予想をすることに難儀している児童がいる場合は、デジタル教科書の「めくり」を開き、キャラクターのふきだしを見せて、そこから気づきを促すようにするとよい。